



J・M・E・S

ニューズレター 2017 年度第 1 号

日本音楽表現学会 2017 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会第 15 回（クロッシング）大会特集

目	次
【巻頭言】研究のきっかけ	 應和 恵子 2
日本音楽表現学会第 15 回（クロッシング）大会報告	 3
2017 年度総会報告	 3
第 15 回クロッシング大会を終えて—	 岡田 敦子 12
参加者の声：実行委員、発表者として	 佐藤 容子 12
発表デビュー !?	 大内 邦靖 17
「クロッシング大会」に参加して	 久保田葉子 17
第 15 回クロッシング大会に参加して	 坂東 肇 17
大会スナップ集（グラビア）	 13
【随想】茶の湯と音楽	 木下 千代 18
新入会員紹介	 19
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	 21
研究活動支援情報	 21
事務局からの重要なお知らせとお願い	 22
日本音楽表現学会第 16 回大会のご案内	 24
2017 年度役員・委員等一覧	 24
編集後記	 24

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail : music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

研究のきっかけ

應和 恵子（声楽／財務局長）

去る6月17・18日、東京音楽大学においてクロッシング大会が盛会裡に終了した。岡田実行委員長、加藤事務局長の陣頭指揮の下、委員の先生方と博士課程の学生さん達の行動力の光った大会運営であった。懇親会も細部に至るまで気配りが感じられ、会場設営の美しさ、気品ある花飾り、最高の料理と演出、さすが日本の首都東京のおもてなしであった。

この数年、大会時は受付から離れられないのだが、ある時間帯を過ぎると暇な時間もある。受付担当と世間話をしたり、物思いにふけったりする。今回は文科省の若手在外研修（35才まで）の機会が与えられた頃のことを思い出していた。

大学在学中、声楽科は英語を受講しても単位にならなかったのも、35才の時は英語に苦手感を持っていた。10ヶ月の海外研修が決まり「どこで、何を」と考えたとき、「先ずアメリカで聞き取りにくいアメリカ英語を勉強し、アメリカの声楽教育を研究し、ヨーロッパのオペラを観て回ろう」と決めた。

私は在学時からイタリア語もドイツ語もできるだけ正しく発音しようと人一倍心がけていた積もりである。しかし、大好きなドイツ語で歌うとのどが痛くなるのに対して、当時好きではなかったフランス語で歌うと比較的に歌える。日本語の場合も曲によって違う。何かが違うことはわかっていたが、どうすればよいのか判らないまま、30才で教育学部の教員になった。今思うと、現在の自分の声楽指導の基礎となるのは、この在外研修である。

与えられた10ヶ月の最初の1ヶ月はアメリカの英語学校で10代の若者と一緒に英語漬けの日々を送り、2ヶ月目からインディアナ大学で研究員として授業に参加したり、聴講させていただいたりした。声楽初心者の授業では、「Caro mio ben」を「Ah my dear heart」と、「Voi che sapete」を「You know the answer」と歌う練習をし、とても愉快地感じた。

その授業の第1回目に「自分の名前を発音記号で書きなさい」と言われた。そのときはなぜそうすることが必要なかわからなかったが、大学内の音楽関係の本屋でその答えを見つけることができた。

ラフマニノフやドビュッシーの歌曲、有名どころのオペラアリアの歌詞に、原語と発音記号、英語の逐語訳がついている本が売られていたのである。やはりアメリカはマニュアルの国で、非常に合理的にできている。発音記号が理解できれば、ロシア語やフランス語を勉強していなくても最低限の発音ができるということである。また、子音と母音それぞれについて、国際音声記号（International Phonetic Alphabet）による発音の記号が示され、その発音時の「唇の開閉と形状」と「あごの状態」、「歯の開閉状態」、「舌の位置や動き」などについて説明されている本も売られていた。

我々日本人が初めて英語を学ぶとき、なぜ英語のスペルと発音が違うのだろうと悩んだことがあると思う。上記の授業で「発音記号で書く」という練習は、「英語以外の言語で歌うには、発音記号をしっかりと勉強しなさい。発音記号がわかれば、いろいろな外国語で歌えるよ」という示唆であった。

その授業をきっかけに発音に関する資料を収集し、帰国後これらの本を基に、「子音の発音」と「母音の発音」に関する論文を大学紀要に掲載して頂いた。理解したことを論文化することで、「子音は単独で正確に短く発音し、母音は正確に安定した音程で長めに発すると、発音が明瞭になり発声も安定する」という結論に至った。

古いものを整理していたら、柴田睦陸先生の授業ノートに同じ内容が書かれてあるのを見つけた。授業時にはなるほどと納得したのだったが、10年以上かけて心の底から理解できたのだった。長くかかったものである。

この学会の特徴はおおらかさにある。多種・多方面の音楽に関わる専門家がお互いを受容しあっている。意見交換し合い、さまざまな考えからきっかけやヒントを得て新たな表現や研究に取り組む。そこにこの大会や学会誌の存在価値がある。表現を言葉で説明するのは非常に難しいことである。悩んでいる人もこの学会で研究のきっかけを見つけることができるであろう。

日本音楽表現学会第15回（クロッシング）大会報告

2017年度総会報告

日 時：2017年6月17日（土）16:00～17:20

場 所：東京音楽大学 A 館 100 周年記念ホール

出席者数：開会に先立ち、出席者と委任状が数えられた。6月16日時点の正会員数542名に対し、総会出席者数92名、委任状提出者191名、合計283名であり、総会成立に必要な「正会員の5分の1以上の出席（委任状を含む）」（会則第14条）の条件を満たしていることから、本総会の成立が確認された。

1. 開会の辞：後藤丹会長より開会の挨拶があった。
2. 議長・記録選出：議長に中村隆夫会員、記録に杉江淑子会員を選出した。
3. 報告

1) 2016年度事業報告

豊田典子事務局長より、【資料1】に基づき報告があり、承認された。

【資料1】2016年度事業報告（2016年4月1日～2017年3月31日）

第14回（メム）大会	6月4-5日	於：拓殖大学北海道短期大学
理事会	第1回 6月5日（日）17:00-18:00	於：拓殖大学北海道短期大学
	第2回 12月4日（日）10:00-17:00	於：京都市生涯学習センターアスニー
	第3回 3月19日（日）10:00-17:00	於：京都市北文化会館
編集委員会	その他、電子媒体による持ち回り会議	
	第1回 6月4日（土）10:00-12:00	於：拓殖大学北海道短期大学
	第2回 7月31日（日）10:00-16:30	於：京都市生涯学習センターアスニー
	その他、電子媒体による持ち回り会議	
ニューズレター発行	No.1 7月31日（日）	
	No.2 11月30日（水）	
	No.3 3月31日（金）	
『音楽表現学のフィールド2』発刊	9月15日（木）	
『会員名簿2016年度版』発行	11月30日（水）	
『音楽表現学』Vol.14発行	11月30日（水）	
後援	15件（NL広報分）+学会HP分	

2) 第14回（メム）大会決算報告

應和恵子財務局長より、【資料2】に基づき報告があり、承認された。

【資料2】第14回（メム）大会決算報告

【収入】	費 目	金 額	備 考	参考（予算）
	大会参加費	770,000	学会員：5,000円×140名＝700,000円 当日会員：3,000円×20名（延べ人数）＝60,000円 学生会員：2,000円×5名（延べ人数）＝10,000円	670,000
	広告・ブース料	430,000		430,000
	『大会要項』販売	900	一部300円	0
	雑収入	0		0
	合計	1,200,900		1,100,000
【支出】	費 目	金 額	備 考	参考（予算）
	基調講演講師謝礼	50,000	旭山動物園園長	50,000
	学会企画情報提供者謝礼	100,000	東京から 国立大学旅費規程準拠	100,000
	オープニング演奏経費	8,400	昼食等	8,400
	学生アルバイト謝金	121,275	770円×（8名×9h）＋770円×（9名×9.5h）	121,275
	アルバイト昼食代	11,900	700円×17名（1日目8名、2日目9名）＝11,900	11,900
	校舎施設使用料	30,000		30,000
	会議費	28,700	理事会・実行委員会・参事等昼食代（1日目）、他	40,000

大会事業経費	159,880	事務局スタッフ宿泊費、交通費、参事前日宿泊費、大会本部経費、	100,000
ポロシャツ補充	0		0
同・クリーニング代	4,752		0
『大会要項』等編集・印刷費	471,096	チラシ、ポスター、『大会要項』発送費を含む	450,000
通信費	2,808	*	50,000
交通費	96,840	表敬訪問、他	100,000
文具費	0		7,000
雑費	10,559	茶菓・コップ・ごみ袋など	31,425
小 計	1,096,210		1,100,000
一般会計へ繰り入れ	104,690		
合 計	1,200,900		1,100,000

* 予算項目では【『大会要項』発送費等】だが、今年度の昭和印刷からの「納品書・請求書」は送料込み＋消費税で一括して記されているので分離できない。そこで『大会要項』発送費を『大会要項』等編集・印刷費に含めた。

懇 親 会

【収入】	費 目	金 額	備 考	参考 (予算)
	参加費	540,000	5,000 円 × 108 = 540,000	500,000
	合計	540,000		500,000
【支出】	費 目	金 額	備 考	参考 (予算)
	懇親会費	475,000	5,000 円 × 95 = 475,000	460,000
	アトラクション	40,000	花材及び生け込み謝礼	40,000
	一般会計へ繰り入れ	25,000		0
	合計	540,000		500,000

3) 2016 年度会計報告・監査報告

應和恵子財務局長より【資料 3】に基づき報告があり、渡会純一監事より、2016 年度会計処理が適正に行われており会計報告に問題がないとの監査報告があった。監査報告の日付の微細な誤記の修正確認がなされた上で、承認された。

【資料 3】2016 年度会計報告・監査報告

【収入】	費 目		2016 年度決算	2016 年度予算
	学会年度会費	491 名※	2,448,000	2,500,000
		賛助会員	0	5,000
			0	0
	学会誌売上		149,944	50,000
	利息		61	1,000
	大会からの繰り入れ		129,690	0
	雑収入 (誤入金等)		11,648	0
	小 計		2,739,343	2,556,000
	前年度繰越		2,271,955	2,271,955
	学会基金	(2016 年度分離)	0	0
	合 計		5,011,298	4,827,955
【支出】	費 目		2016 年度決算	216 年度予算
	『音楽表現学』	印刷費	564,960	600,000
	ニューズレター	印刷費	118,396	130,000
	名簿 (偶数年発行)	作成・印刷費 *	209,993	200,000
	理事会	会議費	38,804	25,000
		交通費	360,219	350,000
	編集委員会	会議費	17,849	10,000
		交通費	278,880	300,000
		編集費 (予算時は資料費)	2,263	5,000
	デザイン室 (NL、『音楽表現学』等作成)		60,900	350,000
	学会基金積立		300,000	300,000
	論文執筆のしおり	印刷費	-	-
	選挙管理委員会 (奇数年)	会議費	-	-
		交通費	-	-
		郵送料	-	-
		封筒作製費	-	-
		選挙公示文書作成費	-	-
		選挙公示文書印刷費	-	-

通信費		256,199	150,000
払込手数料		7,560	10,000
事務局費		130,578	150,000
雑費		11,418	100,000
返金（誤入金等に対応）		11,432	
大会関連費		0	100,000
予備費		0	200,000
小 計		2,369,451	2,980,000
次年度繰越金		2,641,847	1,847,955
学会基金	2016 年分離	0	0
合 計		5,011,298	4,827,955

※滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち、年度中に納入された年会費延べ人数分である。

以上の通り報告いたします。
財務 應和恵子 2017 年 5 月 15 日

監査の結果、以上に間違いありません。
監査 渡会 純 2017 年 5 月 25 日

4) 学会基金について

應和恵子財務局長より【資料4】に基づき報告があった。会員から、【資料3】2016年度会計報告・監査報告（案）「支出の部」の「学会基金積立」300,000円と、【資料4】学会基金収支報告の「2016/9/15口座開設」の4,800,000円の整合関係について質問があり、應和財務局長より、後者は、2015年度までの基金の合計額4,500,000円に、2016年度の一般会計から基金への繰入額300,000円を加えた合計額であることが説明された後、本報告が承認された。なお、「フィールド2」の売上に関連して、奥デザイン室長から、『音楽表現学のフィールド2』をぜひとも多くの会員が購入くださるようという要望があった。

【資料4】学会基金収支報告（2016年9月16日～現在、ただし口座開設以前の立替分も含めて計上している。）

収入	費 目	金 額	支出	費 目	金 額	学会基金は年度で区切らない	
	2016/9/15 口座開設	4,800,000		出版費用（東京堂出版）	1,620,000	収入金額	5,491,999
	「フィールド2」売上	691,986		編集・製版等諸経費	130,470	支出金額	1,813,246
	利息	13		交通費	60,400	現在高	3,678.753
	振込手数料			合計	1,813,246		
合計		5,491,999					

5) 年会費納入状況について

(1) 2017年6月10日現在の年会費納入状況

應和恵子財務局長より【資料5】に基づき報告があった。

【資料5】年会費納入状況

会員数	未納状況	納入額（滞納徴収分も含む）
521 名 (2017 年 3 月 31 日)	2014 年度から 6 名 2015 年度から 22 名 2016 年度から 55 名	正会員 5,000 円 × 330 名 = 1,650,000 円 親族割引 4,000 円 × 0 名 = 0 円

(2) 学会年会費の免除措置について

豊田典子事務局長より、以下の報告があった。

「日本音楽表現学会では自然災害などの被災会員に対して年会費の減免のサポートを行う。被災会員は HP 該当ページの書式をご参考の上事務局宛に申請すること。」

6) 『音楽表現学のフィールド2』編集委員会完了について

豊田典子事務局長より編集委員への感謝の意が述べられた。

7) その他

・「日本学術協会賞」「育志賞」の推薦について

豊田典子事務局長より、「日本学術協会賞」「育志賞」の推薦について理事会として検討した結果、2016年度は「該当者なし」となり、推薦しないことが報告された。なお、今後、推薦までの手続き・方法等について理事会で検討し、学会ホームページに掲載していく予定であるとの報告があり、了承された。

4. 協議

1) 2017年度事業計画について

豊田典子事務局長より【資料6】に基づき提案があり、微細な誤記の修正確認の上、原案どおり承認された。

【資料6】2017年度事業計画（2017年4月1日～2018年3月31日）

第15回（クロッシング）大会	2017年6月17日（土）～18日（日）	於：東京音楽大学
2017年度理事会	第1回 2017年6月17日（土）10:00-12:00	於：東京音楽大学
	第2回 2017年12月初旬	於：未定
	第3回 2018年3月下旬	於：未定
	その他 電子媒体による持ち回り会議	
学会誌編集委員会	第1回 2017年6月17日（土）10:00-12:00	於：東京音楽大学
	第2回 2017年8月初旬	於：未定
	第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等	
学会誌『音楽表現学』Vol.15 発行	2017年11月30日（木）	
ニューズレター発行	No.1 2017年7月31日（月）	
	No.2 2017年11月30日（木）	
	No.3 2018年3月31日（土）	
後援	35件	

2) 第15回（クロッシング）大会予算について

應和恵子財務局長より【資料7】に基づき提案があり、微細な誤記の修正確認の上、原案どおり承認された。

【資料7】クロッシング大会予算

【収入】

費 目	金 額	備 考	メモ決算
大会参加費	780,000	学会員：5,000円×140名＝700,000円 当日会員：3,000円×20名＝60,000円 学生会員：2,000円×10名＝20,000円	770,000
広告・ブース料	290,000		430,000
『大会要項』販売	0	一部300円	900
雑収入	0		0
小計	1,070,000		1,200,900
一般会計から補助	180,285		-
合計	1,250,285		-

【支出】

費 目	金額	備 考	メモ決算
基調講演講師謝礼	100,000	講師：小鍛治邦隆氏	50,000
学会企画 レクチャーコンサート	0		100,000
オープニング演奏経費	18,200	昼食等 700×26名分	8,400
学生アルバイト謝金	128,000	17日1000円×62h、2日1000円×66h	121,275
アルバイト昼食代	19,000	17日700円×10名＝7000 18日1,000×12名＝12000	11,900
校舎施設使用料・機材レンタル料	150,000	空調費	30,000
会議費	30,000	理事会・実行委員会・参事昼食代（1日目のみ）、他	28,700
大会事業経費	180,000	事務局スタッフ宿泊費、交通費、参事前日宿泊費、大会本部経費	159,880
ボロシャツ補充	0		0
同・クリーニング代	5,000		4,752
『大会要項』等編集・印刷費・発送費	531,375	チラシ、ポスターを含む	471,096
通信費	5,000		2,808
交通費	73,710	表敬訪問、他	96,840
文具費	0		0
雑費	10,000	茶菓等	10,559
小計	1,250,285		1,096,210
一般会計へ繰り入れ	0		104,690
合計	1,250,285		1,200,900

懇親会

【収入】

費 目	金 額	備 考	メモ決算
参加費	500,000	5,000円×100名＝500,000	540,000（108名）
合計	500,000		540,000

【支出】	費 目	金 額	備 考	メム決算
	懇親会費	500,000	5,000 円 × 100 名 = 500,000	475,000
	アトラクション	0		40,000
	一般会計へ繰り入れ	0		25,000
	合計	500,000		540,000

3) 2017 年度予算について

應和恵子財務局長より【資料 8】に基づき提案があり、微細な誤記の修正確認の上、原案どおり承認された。

【資料 8】2017 年度予算

【収入】	費 目	2017 年度予算	2016 年度決算	2016 年度予算
	学会年度会費 500 名※	2,500,000	2,448,000	2,500,000
	賛助会員	0	0	5,000
	学会誌売上	80,000	149,944	50,000
	利息	60	61	1,000
	大会からの繰り入れ	0	129,690	0
	雑収入（誤入金等）	0	11,648	0
	小 計	2,580,060	2,739,343	2,556,000
	前年度繰越	2,641,847	2,271,955	2,271,955
	合 計	5,221,907	5,011,298	4,827,955

【支出】	費 目	2017 年度予算	2016 年度決算	2016 年度予算
	『音楽表現学』 印刷費等	600,000	564,960	600,000
	ニューズレター 印刷費等	130,000	118,396	130,000
	名簿（隔年） 作成・印刷費	0	209,993	200,000
	理事会 会議費	40,000	38,804	25,000
	交通費	350,000	360,219	350,000
	編集委員会 会議費	20,000	17,849	10,000
	交通費	300,000	278,880	300,000
	編集費	5,000	2,263	5,000
	デザイン室（NL、学会誌等作成）	100,000	60,900	350,000
	学会基金積立	300,000	300,000	300,000
	論文執筆のしおり 印刷費	-	-	-
	選挙管理委員会（隔年） 会議費	10,000	-	-
	交通費	40,000	-	-
	郵送料	70,000	-	-
	封筒作製費	8,000	-	-
	作業費	5,000	-	-
	印刷費	35,000	-	-
	通信費	250,000	256,199	150,000
	払込手数料	10,000	7,560	10,000
	事務局費	150,000	130,578	150,000
	雑費	50,000	11,418	100,000
	返金（誤収入等に対応）	0	11,432	0
	大会補助	180,285	0	100,000
	予備費	100,000	0	200,000
	小 計	2,753,285	2,369,451	2,980,000
	次年度繰越金	2,468,622	2,641,847	1,847,955
	学会基金 2016 年分離	0	0	
	合 計	5,221,907	5,011,298	4,827,955

※滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち、年度中に納入された年会費延べ人数分である。

学会基金	収 入	金 額	支 出	金 額
2016 年から分離	現在高	3,678,753	出版費用	0

4) 「日本音楽表現学会会則」の改正について

豊田典子事務局長より【資料 9】に基づき提案があり、原案どおり承認された。

【資料9】日本音楽表現学会会則

改 定	現 行
以下の各条項末尾の句点を削除 第3条(1)～(4)、第5条(1)～(3)、第13条(1)～(6)、第15条5(1)～(6) 第11条 (2) 副会長、事務局長、財務局長および理事は、まず候補者8名を正会員の選挙によって選出する。次に、当選者の互選によって、内2名を副会長、1名を事務局長、1名を財務局長に選出するとともに、4名の理事の担当を決定の上、総会において報告する。 附則 8. 2017年6月17日改正	以下の各条項について末尾の体言止に句点がつけられている。 第3条(1)～(4)、第5条(1)～(3)、第13条(1)～(6)、第15条5(1)～(6) 第11条 (2) 副会長、事務局長、財務局長および理事は、まず候補者8名を正会員の選挙によって選出する。次に、当選者の互選によって、内2名を副会長に、1名を事務局長、1名を財務局長に選出するとともに、4名の理事の担当を決定の上、総会において報告する。

5)「日本音楽表現学会編集委員会規定」の改正について

豊田典子事務局長より【資料10】に基づき提案があり、原案どおり承認された。なお、質疑応答の過程で、改定(案)の第8条に関し、査読を依頼できる「専門分野の研究者」については会員外の研究者もありうるのかとの質問があり、それを受けて、会員内・会員外を問わず依頼できることが確認された。

【資料10】日本音楽表現学会編集委員会規定

改 定	現 行
名称 日本音楽表現学会 編集委員会規定	日本音楽表現学会 編集委員会規程
第2条(1)～(4)、附則2.3.の末尾の句点を削除 第7条 委員会はデザイン室と協同して会務を遂行する。(新設) 第8条 委員会は必要に応じて専門分野の研究者に査読を依頼することができる。(新設) 第9条 委員会は会務を遂行するため、必要に応じて専門委員若干名を委嘱することができる。 第10条 投稿規定は、別に定める。 附則 6. 2017年6月17日改正	第2条(1)～(4)、附則2.3.の末尾の体言止に句点 第7条 委員会は会務を遂行するため、必要に応じて専門委員若干名を依頼することができる。 第8条 投稿規程は、別に定める。

6)「日本音楽表現学会『音楽表現学』投稿規定」の改正について

豊田典子事務局長より【資料11】に基づき提案があった。質疑応答を経た上で、改定(案)の「3. 原稿の種別」のなお書き部分(「なお、(1)～(3)の原稿は投稿によるものとし、(4)～(9)の原稿は理事会からの委嘱によるものとする。」)及びそれに連動する「5. 投稿要領」の改定箇所を除き、その他の改定(案)について、会員からの①②修正意見と文言検討の要請を受け入れた上で、承認された。

①「2. 投稿者の資格」

(改定案) 機関誌発行年度までの年会費→(修正意見) 当該機関誌発行年度までの年会費

②「5. 投稿要領(2) 七番目の「・」

(改定案) それらに用いたソフト名→(修正案例) それらの作成に用いたソフト名

そのほかに、質疑応答の中で「6. 投稿原稿の採否について」の改定(案)「(1) 投稿原稿は、編集委員会の依頼を受けた当該分野の研究者4名によって査読される。(以下略)」に関し、査読を行う当該分野の研究者4名には編集委員も含まれることが確認された。

「3. 原稿の種別」のなお書き部分については以下の意見が出され、これらを踏まえて、理事会で継続審議されることとなった。

- ・改定(案)では、「寄書」が「理事会からの委嘱によるもの」とされているが、会員からの自主的な投稿もできるのが良い。
- ・「批評」「書評」も会員からの自主的な投稿があつてよいのではないか。したがって、なお書きの「(1)～(3)の原稿は投稿によるものとし、(4)～(9)の原稿は理事会からの委嘱によるものとする。」を「(1)～(6)の原稿は投稿によるものとし、(7)～(9)の原稿は理事会からの委嘱によるものとする。」としてはどうか。
- ・活性化を促したいということであれば、投稿や編集委員会からの委嘱も可能であることが示せるように、

「(4)～(9)の原稿は理事会から委嘱することができる。」としてはどうか。

☆最後に議長から、「3. 原稿の種別」のなお書き部分に関して出された原案よりも会員が自由に投稿できる方向を強めたほうがよいという意見が多かったと思われる。それを踏まえて、理事会で再度検討いただいては、と提案され、了承された。

☆奥デザイン室長より、この部分の改訂案については、編集委員会の過重な負担の軽減のため、理事会が可能なのは手助けしようという趣旨であったことを理解いただきたい旨の発言があった。

【資料 11】『音楽表現学』 投稿規定

改 定	現 行
以下の各条項末尾の句点を削除 3. (1)(2)(4)(7)	以下の各条項について末尾の体言止に句点がつけられている。 2. (1)(2)(4)(7)
1. 名称と内容 日本音楽表現学会は、機関誌として学術研究雑誌『音楽表現学 (Bulletin of the Japan Music Expression Society)』を刊行する。『音楽表現学』には、論文、寄書、展望、解説等を掲載し、使用言語は日本語または英語とする。原稿は未 <u>公刊</u> のものに限る。	1. 名称と内容 日本音楽表現学会は、機関誌として学術研究雑誌『音楽表現学 (Bulletin of the Japan Music Expression Society)』を刊行する。『音楽表現学』には、論文、寄書、展望、解説等を掲載し、使用言語は日本語または英語とする。原稿は未 <u>発表</u> のものに限る。
2. 投稿者の資格 投稿者および共同執筆者は、 <u>当該機関誌発行年度までの年会費を納入した会員に限る</u> 。ただし、依頼原稿執筆者はこの限りでない。	3. 投稿者の資格 投稿者および共同執筆者は、 <u>その年度の年会費を納入した会員に限る</u> 。ただし、依頼原稿執筆者はこの限りでない。
3. 原稿の種別 原稿には以下の種別がある。 (1) 原著論文 (Original paper) : <u>音楽表現（創造、再現、表現技法、知覚・認知、感性と能力の育成等）に関する研究論文で、学術研究としての形式を備え、独自の知見を示しているもの</u> (2) 評論論文 (Review article) : <u>音楽表現（創造、再現、表現技法、知覚・認知、感性と能力の育成等）に関する独自の見解を論理的に検証するもの</u> (3) 研究報告 (Short report) : 試験的報告、内外諸研究の追試的検討、研究資料の公表、新しい方法の提案等 (4) 批評 : <u>音楽作品や演奏についての検討、評価、意見等</u> (5) 書評 : <u>音楽表現に関する印刷物についての検討、評価、意見等</u> (6) 寄書 (Letter to the editor) : 研究速報、討論、提案、学会に対する意見等 (7) 展望 : <u>今日的な問題に関して、今後の展望を記述したもの</u> (8) 解説 : <u>特定の主題について、専門外の者にも分かりやすい解説等</u> (9) その他、国際会議参加報告、研究所紹介等 なお、(1)～(3)の原稿は投稿によるものとし、(4)～(9)の原稿は理事会から委嘱することができる。	2. 原稿の種別 原稿には以下の種別がある。 (1) 原著論文 (Original paper) : <u>音楽の演奏、創作、教育等に関する研究論文で、学術研究としての形式を備え、独自の知見を示しているもの。</u> (2) 評論論文 (Review article) : <u>音楽の演奏、創作、教育等に関する独自の見解を論理的に検証するもの。</u> (3) 研究報告 (Short report) : 試験的報告、内外諸研究の追試的検討、研究資料の公表、新しい方法の提案 <u>など。</u> (4) 寄書 (Letter to the editor) : 研究速報、討論、提案、学会に対する意見 <u>など。</u> (5) (6) (7) その他、国際会議参加報告、研究所紹介 <u>など。</u> なお、(1)～(4)の原稿は投稿によるものとし、(5)～(7)の原稿は <u>編集委員会からの依頼によるものとする。</u>
5. 投稿要領 (2) 原稿の形式および分量は次のとおりとする。 ・原稿の刷り上がりページ数を原則として次のとおりとする。基準を超えるもの、 <u>特殊印刷を必要とするもの</u> については、 <u>執筆者に超過負担金を求める</u> 。 原著論文、評論論文 : 20 ページ以内 研究報告 : 10 ページ以内	5. 投稿要領 (2) 原稿の形式および分量 ・原稿の刷り上がりページ数を原則として次のとおりとする。基準を超えるものについては、 <u>著者に超過負担金を求める場合がある</u> 。 原著論文、評論論文 : 20 ページ以内 研究報告 : 10 ページ以内 <u>寄書、展望、解説 : 4 ページ以内</u>

- 英語での投稿に際しては、事前に<u>当該分野の研究者のネイティブチェック</u>を受けること。 - 図および表には必ず番号とタイトルをつける。 なお、譜例、図版、図表とそれらの作成に用いたソフト名と OS を明記して精細なデータを別添すること。<u>縮小等適正化はデザイン室が行うのでサイズに関係なくオリジナルのデータを提出すること。楽譜の全曲掲載は原則として認めない。</u> - 注および引用文献は、論文の最後に一括して記すこと。引用文献の情報には、以下が含まねばならない：著者、（論文名）、書名、出版社、出版年、引用ページ。なお、書式については学会 URL の「引用文献の記載方法例」に従う。 - 原稿は、コピー 9 部を提出し、それとは別にメールに添付する。Microsoft Word での提出が望ましい。 6. 投稿原稿の採否について (1) 投稿原稿は、<u>編集委員会の依頼を受けた当該分野の研究者 4 名によって査読される。編集委員会は提出された査読報告を基に掲載の可否について決定する。</u> 7. 原稿締め切り 毎年 5 月 15 日とする。 附則 10. 2017 年 6 月 17 日改正	- 英語での投稿に際しては、事前にネイティブチェックを受けること。 - 図および表には必ず番号とタイトルをつける。 なお、譜例、図版、図表については精細なデータを別添すること。<u>縮小作業は印刷所が行うのでサイズに関係なくオリジナルのデータを提出すること。楽譜の全曲掲載は原則として認めない。</u> - 注および引用文献は、論文の最後に一括して記すこと。引用文献の情報には、以下が含まねばならない：著者、（論文名）、書名、出版社、出版年、引用ページ。なお、書式については学会 URL の「引用文献の記載方法例」に従うこと。 - 原稿は、コピー 9 部を提出し、それとは別にメールに添付する。Microsoft Word での提出が望ましい。<u>譜例・図表などについては、それらに用いたソフト名と OS を明記すること。</u> 6. 投稿原稿の採否について (1) 投稿原稿は、<u>編集委員会によって査読・検討され、その掲載の可否が決定される。なお、編集委員会以外の会員に査読協力を依頼することがある。</u> 7. 原稿締め切り 毎年 5 月 31 日とする。
--	---

* 投稿規定 3 (9) の文末の「なお書き」に関しては総会での意見を反映した理事会案を載せていますが継続審議中です。次回の総会で諮りますことをご了解ください。

○『音楽表現学』価格改定について

豊田典子事務局長から、『音楽表現学』の Vol.15 以降の価格を（単価）会員価格 2,500 円、一般価格 3,000 円と改めることが提案され、承認された。

7) 「デザイン室規定」の新設について

豊田典子事務局長から【資料 12】に基づき提案があり、原案どおり承認された。

【資料 12】デザイン室規定

新設（デザイン室規定）	参考（デザイン室設置趣旨と運営方針）
第 1 条 会則（第 3 条（4）ならびに第 15 条 5）に基づき、会長の直属組織としてデザイン室をおく。	① 会則（第 3 条（4）ならびに第 15 条 5）に基づき、会長の直属組織としてデザイン室をおく。
第 2 条 デザイン室の業務は、ニューズレター・大会要項等、印刷物・出版物のデザイン・編集等とする。	② デザイン室の業務は、ニューズレター・大会要項等、印刷物・出版物のデザイン・編集等とする。
第 3 条 デザイン室に室長をおく。室長は会長が委嘱し、期限は 2 年とする。ただし再任を妨げない。	③ デザイン室に室長をおく。室長は会長が委嘱し、期限は 2 年とする。ただし再任を妨げない。
第 4 条 室長は必要に応じてスタッフを雇うことができる。	④ 室長は必要に応じてスタッフを雇うことができる。 <u>室長とスタッフに対しては、理事会で決定した報酬が支払われる。</u>
第 5 条 業務に必要な経費はデザイン室経費として計上される。	
附則	
1. 本規定は、2017 年 6 月 17 日から実施する。	・開設は 2016 年 7 月 1 日とする

8) 「役員会・委員会等に出席のための交通費・宿泊費に関する内規」の改正について

豊田典子事務局長から【資料 13】に基づき提案があり、原案どおり承認された。

【資料 13】役員会・委員会等に出席のための交通費・宿泊費に関する内規

改正案	現行
3) 宿泊費は、会議の開会予定時刻に前泊が必要不可欠とされる場合、あるいは会議終了予定時刻に後泊が必要不可欠とされる場合に支給される。なお、上限を 1 泊 <u>10,000 円</u> とする。パックツアー利用の場合にも上記を基準にして支給される。	3) 宿泊費は、会議の開会予定時刻に前泊が必要不可欠とされる場合、あるいは会議終了予定時刻に後泊が必要不可欠とされる場合に支給される。なお、上限を 1 泊 <u>6,000 円</u> とする。パックツアー利用の場合にも上記を基準に交通費と宿泊費を合体した形で支給される。
4) 交通費・宿泊費は指定の様式による本人の申告に基づいて支給される。他の組織から支給される場合、あるいは私的な事情で必要としない場合には不要の旨を申告するものとする。	4) 交通費・宿泊費は本人の申告制とし、手続きに従い支給される。他の組織から支給される場合、あるいは私的な事情で必要としない場合には不要の旨を申告するものとする。
附則 2. 2004 年 6 月 21 日改正 3. 2017 年 6 月 17 日改正	附則 2. <u>本規定は 2004 年 6 月 21 日から実施する。</u>

9) 2017-18 年度編集委員の委嘱について

豊田典子事務局長から【資料 14】に基づき提案があり、原案どおり承認された。

【資料 14】 2017-18 年度編集委員の委嘱

2 期目：吉永 誠吾 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武
1 期目：大竹 紀子 中 磯子 水戸 博道 宮本賢二郎

10) 2018-19 年度会長・理事選挙について

豊田典子事務局長から【資料 15】のとおり、選挙管理委員の委嘱について提案があり、原案どおり承認された。

【資料 15】 2018-19 年度選挙管理委員の委嘱

(2 期目) ○笹野恵理子 (1 期目) 大澤 智恵 樫下 達也

11) 年会費滞納による除名について

豊田典子事務局長より、【資料 16】の 4 名が 3 年以上の年会費滞納者であることから、会則第 8 条 (2) に基づき会員資格を失うため、会員名簿から削除することが提案され、承認された。(ただし、本総会后、速やかに ニュースレター 1 号印刷までに 入金があった場合は除名処分が撤回される)

【資料 16】 年会費滞納による除名者 **個人情報につき削除**

12) 第 16 回大会開催期日と開催候補地について

豊田典子事務局長より、第 16 回大会が 2018 年 6 月 9 日 (土)~10 日 (日) に広島大学東広島キャンパス開催されることが提案され、承認された。権藤敦子会員のご挨拶とともに、「音楽はいかにヒロシマを伝えてきたか」を大会テーマとして考えているとの報告があった。

*その後、実行委員会より地理的条件および学内設備がよりよい会場を検討したい、という申し入れがあり、現在検討中です。決定次第学会 H P に掲載します。

13) その他

5. 閉会の辞

第15回（クロッシング）大会を終えて――

クロッシング大会実行委員長 岡田 敦子

日本音楽表現学会第15回（クロッシング）大会を無事終了できましたことを心より感謝申し上げます。日程的には梅雨の真只中でありましたが、今年の東京は雨が少なく、この両日も天候に恵まれ、日本全国から多くの方にご参集いただきました。大会初日の6月17日土曜日は、東京音楽大学では通常の授業の他に、小中学校生向けの音楽教室も行われており、週末の大学にしては賑やかななかでのスタートであったかもしれません。

開催にあたりましては、日本音楽表現学会の本部役員の方々、大会実行委員会の皆さまに、東京音楽大学博士課程、および音楽教育専攻の教員・学生がまさにクロッシングで協働させていただきました。本学博士課程は2014年にスタートし、この3月に完成年度を終えたばかりですが、音楽大学の特色と言うべきか演奏系の学生が多く、学術研究的な経験の少ない彼らに学会というものを身をもって体験する機会を与えていただきましたことは、教育上の見地からも貴重なことでした。重ねて御礼申し上げます。

ところで、皆さまご存じのように、全国の教職課程を有する大学では、来年3月末日の教職課程再課程認定申請の期日が迫りつつあります。そのなかで演奏や作曲のような実技系教員にも活字業

績が求められていることは、これまでにないハードルと言わなければなりません。今回の全国大会ではそれに対応する、あるいは対応できるとみられる発表が数多くありました。日本音楽表現学会は「もともと多士済々の集まり」（後藤丹会長）で、それに対応するかのように、発表内容が多分野にわたっているだけでなく、その方法も実践報告、楽曲分析、ワークショップ、文献研究・・・とじつにさまざまでした。そして、すべての、と言って過言ではない多くの発表が、他の学会では見られないほど生き生きと語られたのは、それぞれの発表者がそれぞれの現場から、あるいは内的な必然性から発言していたからではないでしょうか。日本音楽表現学会は新しい学会ですが、新しいからこそ、既存の確立された方法論から距離を置くこともできるでしょう。たしかに教職課程再課程認定という新たなハードルは、音楽家に音楽実践だけではない能力を要請してきましたが、それに先立って、音楽の現場では、音楽実践にとどまらない多様な発信方法がすでに育まれてきていたのではないのでしょうか。

日本音楽表現学会を通じて、またそれぞれの音楽の現場から、ますます多くの発信が生まれ、世界を豊かにしていくことを祈念して、全国大会終了挨拶ならびに御礼とさせていただきます。

参加者の声

実行委員、発表者として

佐藤 容子（音楽教育）

実行委員として大会に携わるにあたり最も大切にすることは、この学会の大きな魅力である「温かさ」を絶対に損なうことのない運営をすることでした。そのために、実行委員一同、この東京音楽大学の構造や設備に関して、初めて来校する人が不便さや不安を感じることはないよう、必要な機材の把握や構内案内掲示板の作成を徹底し、大会直前まで計画を練りながら万全の体制でお迎えできるよう努めました。

大会初日は、音楽大学らしく祝典ファンファー

レで幕を開け、基調講演、レクチャーコンサート、サロンと続き、自由に活発に意見を述べ、互いに共有することで、音楽を探求する場が広がり、発展していく日となりました。二日目は私も研究発表をし、フロアからの厳しくも的確なご指摘と励ましに包まれ、この学会だからこその懐の深さを再認識する日となりました。

二日間を通して、実行委員、発表者として強く感じたことはやはり、この学会の「温かさ」でした。温かいからこそ励まし合い、温かいからこそ時に厳しい意見も述べられる、この温かさがあるからこそ生き生きと研究ができると強く感じられる素晴らしい大会でした。